

令和5年度 上田市立真田中学校 学校自己評価(中間報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
<かりがね精神> ・磨き合う知性 ・感じ合う心 ・鍛え合う身体 ・見つめ合う命	・自ら意欲的に学ぶ生徒 ・豊かな心を育む生徒 ・進んで身体を鍛える生徒 ・命を大切に学ぶ生徒	— 最終評価(3学期に記述) —
	本年度の重点目標	
	『学びの自立』～生徒に委ねる活動を通して～ ①授業改善の推進 ②コミュニケーション力の育成 ③特色ある教育活動の充実	

◇ 評価基準 A・・・達成できた / B・・・おおむね達成できた / C・・・やや達成できなかった / D・・・達成できなかった

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価				改善策・向上策
				A	B	C	D	
教育活動	授業改善の推進	①「振り返りの時間」を確保しているか。	○1時間の振り返りをタブレット端末で行うと共に、単元毎に振り返りを行うようにした。 △内容が感想にとどまってしまうことがある。 △時間が確保できないことがあった。	33	50	11	6	・時間を確保し、振り返る観点を明確にし、考えたことを共有できるようにする。 ・学習カードの工夫や、タブレット端末を有効活用する。
		②主体的な学びになるよう、「ひとり学び」の時間を授業の中に位置づけているか。	○対象とじっくり向き合う時間を確保した。 △時間を確保できないことがある。	39	39	22	0	・個人追究の時間にメリハリをつける。 ・より分かりやすい学習課題を提示する。
		③対話的な学習となるよう、ペア・少人数グループでの活動を位置づけているか。	○個人追究→グループ追究→全体追究→個人追究(まとめ)の流れが定着している。 △機会の設定に悩むことがある。	39	39	17	6	・計画的に場面の設定をする。 ・何についてどう話すのかを明確にする。
		④1人1台端末の利活用と授業のユニバーサルデザイン化を推進しているか。	○調べたり、探究したりする場面でポイントをしぼって取り入れた。 ○ミニテストや振り返りでタブレット端末を活用できた。 △黒板を使つての授業になることが多い。	33	11	50	6	・どこで使うべきか、吟味する。 ・個人追究の場面でも、ICTを活用していく。 ・全教科、全職員で一つの目標を設定する。
		⑤自己課題解決や発展的な力の伸長に繋がる家庭学習になるよう配慮しているか。	○調べて自分の考えを記入するレポートを課題とした。有効であった。 △問題演習で理解を深めるような扱いになってしまっている。	17	17	44	22	・授業と関連付けた課題を出す。 ・様々な取り組み方を紹介し、自分に合った取り組みを探し出せるようする。
	コミュニケーション力の育成	①ソーシャルスキルを高めるため、考えや思いを発表できる場を設けているか。	○自分のことを表現する場面を設定した。 ○つぶやきや記述をひろって、発言につなげるよう心がけた。 △発表する時間を十分に設けられないことがある。	22	44	33	0	・短学活や特別活動などの時間を活用し、意図的に発表の機会を作る。 ・発表する生徒が偏らないよう工夫していく。 ・制作後に必ず発表会を行う。
		②明るく開放的な人間関係を築くため、率先して明るく爽やかな挨拶をしたり、紡ぐ(生活記録)で心の交流を図ったりしているか。	○挨拶を自分から率先して行うように心がけた。 △挨拶をよくする生徒と、全くしない生徒の差が大きい。 △「紡ぐ」は提出されたものは見ているが、出せない生徒もいる。	39	39	17	6	・教員から挨拶をしたり、生徒同士で呼びかけたりしていく。 ・年間を通して全員が必要なソーシャルスキル教育や自己理解、他者理解ができる学習を行う。
		③歌声が響く学校を目指し、環境を整えているか。	○全校音楽や授業参観時、かりがね祭など歌声が響く機会が多かった。 ○生徒が主体的に取り組むように配慮している。 △一人ひとりの生徒の取り組みに差がある。	17	50	17	17	・より積極的に合唱練習の場に関わる。 ・生徒が合唱の楽しさを味わえるようにしたい。 ・毎日1回は歌う環境を整える。
	特色ある教育活動の充実	①「食と命」をテーマとした探究的な学習に取り組んでいるか。	○農業体験を通じて、体を動かしつつ作物や生命と携わる時間になった。 ○洗浄体験やお弁当作りができた。 ○食品ロスについて考えることができた。 △コロナの影響でこれまでのようになくなっていくことがある。	17	44	33	6	・時間割や学習する項目を再考した方がよい。 ・総合の内容を精選して、食育にじっくり取り組めるよう、考えていく。 ・来年度の全体計画を見直す。
		②各教科等とのつながりをもたせ、習得した知識・技能の活用を促すことができたか。	○複数の教科で関連させることができた。 ○様々な教科で得た知識を生かすように促した。 △意識して取り組むことはできなかったが、結果的につながりができた。	17	56	22	6	・環境問題に関する内容で、社会科等との関連を図る。 ・総合的な学習の時間の全体計画に教科横断的な分野を明記する。
③体験活動や調査活動を通して、思考力・判断力・表現力等の伸長を図ることができたか。		○知りたいと思ったことを、自ら聞いたり、調べたりする場面が多く見られた。 △調査活動は効果的だと思うが時間が確保できなかった。	22	39	33	6	・生徒が目的をもって、自ら達成に向けて活動を続けられるようにしたい。 ・単元や学習場面を絞る。	
④地域の教育力を活用し、社会と繋がる学習活動を行っているか。		○たくさんの地域の方にお世話になっている。 ○外部講師(総合的な学習、保健関係、家庭科)を招いて授業ができた。 ○放課後学習、花壇づくりやサルビア栽培で多くのサポートをいただきありがたかった。 △地域の活動にもう少し協力できるとよかった。	22	33	22	22	・地域の教育力とはなにか、学ぶことから始めたい。 ・より多くの連携ができるよう具体的方策を考える。 ・ウェルビーイングの視点に立って、地域にもプラスになる学習内容を仕組みたい。	
学校運営	家庭や地域と連携した学びの場の創造	①地域と連携し、特色ある教育活動の充実に努めているか。(学校運営委員会・学習支援ボランティア・PTA等)	○真田スポーツクラブとの連携が今年もスムーズにできた。 ○サルビアの定植やボランティアルームの運営、放課後学習など、生徒を見守ってくださりありがたい。 ○PTA活動(PTA作業・試食会等)で連携した活動ができた。	28	39	17	17	・給食委員会のさつまいも栽培を学習支援ボランティアの皆様にご協力いただきたい。 ・継続できるところ、さらに発展できるところを考える。 ・年度当初にボランティアの方の紹介を生徒や保護者に周知していく。
		②地域に開かれた、また、地域に信頼される学校づくりに努めているか。(HPの発信・各種通信の発行・学年学級PTA)	○学年通信や進路通信を発行することに、意味をもたせて取り組むことができた。 △配布物の多くは、メール配信でもよいのではないかと感じる。	17	56	22	6	・時期を逃さず、正確な情報の発信に努めたり、生徒の様子を伝えていく。 ・可能な限りメール配信を活用する。